

16

革命ごっこと戦争モード

国家に挑む

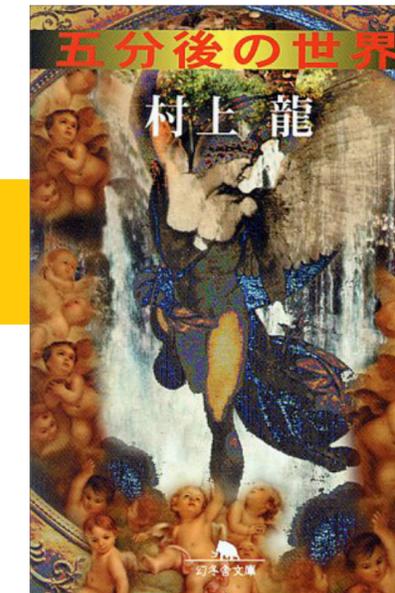
日本初の原潜「シーバット」の艦長・海江田は、試験航海中に突如、反乱逃亡した。海江田は潜水艦を独立国「やまと」と宣言。米軍との戦闘が繰り広げられていく。『五分後の世界』は、五分のずれで現れたもう一つの日本、連合国相手にゲリラ戦を続ける兵士を描く。そこに、新書は「愛国者は信用できるか」という問いを突きつける。物語の男たちは愛国者ではない。まだ見ぬ国家への恋心と国家に挑む新しい倫理の志をもつ者なのである。



マンガ：『沈黙の艦隊』
かわぐちかいじ（講談社）



新書：『愛国者は信用できるか』
鈴木邦男（講談社現代新書）



文庫：『五分後の世界』
村上龍（幻冬舎文庫）

これが必殺！ DONDEN読みだ！！

「DONDEN読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

16

革命ごっこと戦争モード

心に刃を忍ばせて

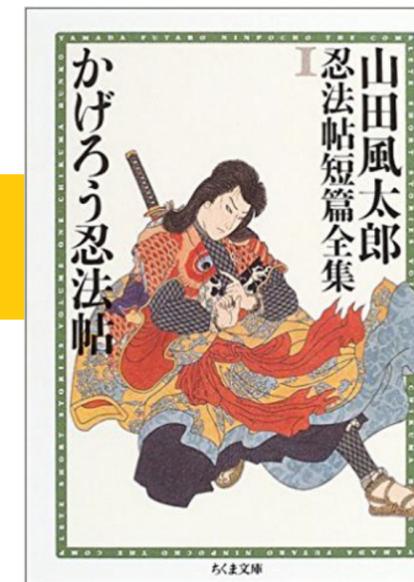
戦乱の世に人知れず生き、人知れず死んだ忍者たちの姿を描く群像大作『忍者武芸帳』。『かげろう忍法帖』にも、光陰の狭間にしか生きられない忍者たちがあまた登場する。ある男はそうした生き様を哲学にまで昇華させた。「武士道と云ふは死ぬ事と見付けたり」と言っのけた山本常朝である。『武士道のすすめ』では、新渡戸稲造『武士道』とともに常朝が著した『葉隠』にも触れる。鋭い切っ先は見せびらかすことなく、ここ一番のときにこそ抜刀することで鮮やかに閃く。



マンガ：『忍者武芸帳』
白土三平（小学館）



新書：『武士道のすすめ』
坂東義明（幻冬舎ルネッサンス新書）



文庫：『野ざらし忍法帖』
山田風太郎（ちくま文庫）

これが必殺！ DONDEN読みだ！！

「DONDEN 読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

23

交際するメディア

艶のジャポニスム

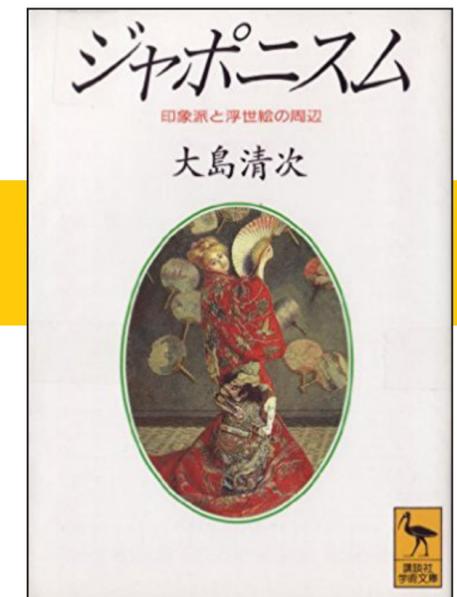
たとえば、国際漫画祭にて、「マンガを芸術に高めた」と賞された『劇画漂流』。「劇画」命名者が著者・辰巳ヨシヒロである。並置の新書は、海外コレクターによる「春画」解説の書。この劇画と春画に共通するのが、「艶のジャポニスム」である。印象派に影響を与えたジャポニスムを、文庫は日仏比較で論考している。マンガ・新書・文庫と併せ読むことで、江戸から現代に通底する美を発見できる。一冊では気づけないつながりを見つけ、さらに DONDON、DENDEN 読みたくなるのが「DONDEN 読み」である。



マンガ：『劇画漂流』
辰巳ヨシヒロ（青林工藝舎）



新書：『わらう春画』
オフエル・シャガン（朝日新書）



文庫：『ジャポニスム
印象派と浮世絵の周辺』
大島清次（講談社学術文庫）

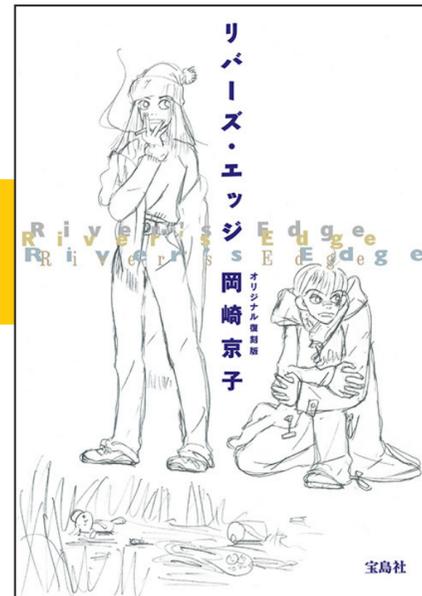
これが必殺！ DONDEN 読みだ！！

「DONDEN 読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

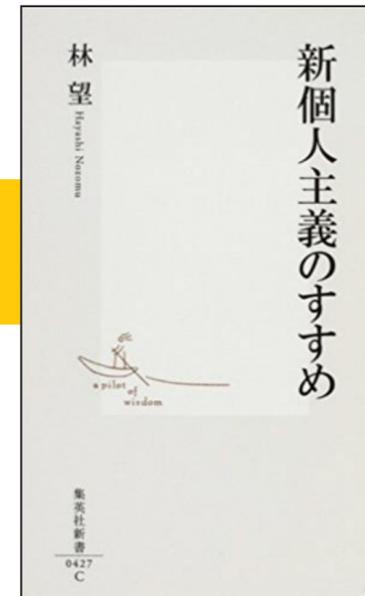
23 | 交際するメディア

土曜日のガールズライフ

新自由主義は市場の自由競争を重んじる経済思想。80年代以降に世界的潮流となった。その影響は個人の生活にも押し寄せてきた。日本も例外ではない。林望は、日本人の身の丈に合った日本の新自由主義を提案する。岡崎京子は暴走する欲望をありのままに描いた。ニューウェーブで、東京パンクな描画は漫画史を刷新した。川上未映子は大阪パンクである。『乳と卵』は日本文学の風景を一夜にして変えた。東西のガールパンクが戦場のようにすさんだ日常、過剰な自由と競争の毎日を全速力で駆け抜ける。



マンガ：『リバーズ・エッジ』
岡崎京子（宝島社）



新書：『新個人主義のすすめ』
林望（集英社）



文庫：『乳と卵』
川上未映子（文藝春秋）

これが必殺！ DONDEN読みだ！！

「DONDEN 読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

03 | 時空をめぐる宇宙旅行

アストロノート

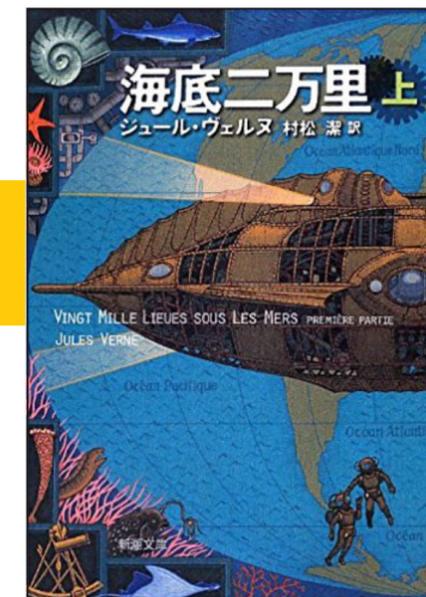
夢叶い、宇宙飛行士になれた弟。一度はあきらめた宇宙飛行士の夢をふたたび目指す兄。『宇宙兄弟』の南波兄弟は〈果てしなき宇宙〉に彼らの〈果てしなき夢〉を重ねる。『宇宙に取り憑かれた男たち』では、宇宙にラブコールを送り続けた男たちの姿がときに愉快にときに悲しく描かれる。宇宙はわたしたちの足元にも広がる。地球最後の秘境と呼ばれる深海がそれだ。深海をめざす『海底二万里』は今から一五〇年前に記された。男たちは大昔から宇宙を夢見てきた。



マンガ：『宇宙兄弟』
小山宙哉（講談社）



新書：『宇宙に取り憑かれた男たち』
的川泰宣（講談社プラスアルファ新書）



文庫：『海底二万里』
ジュール・ヴェルヌ（新潮文庫）

これが必殺！ DONDEN読みだ！！

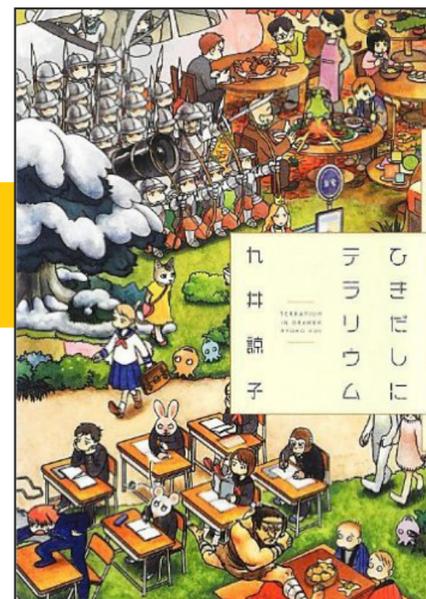
「DONDEN 読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

05

もうひとつの世界へ

〈もしも〉がたくさん

どんな素材をどんな風に描いてもいい。そんなマンガの可能性を一気に押し広げた『ひきだしにテラリウム』。同じ作者が描く作品ごとのタッチの多彩さにも注目である。『日本 SF 短編 50』でも万華鏡のような読後感を堪能できる。日本を代表する SF 小説家たちがそのイマジネーションを全方位に放射する。全五巻。科学作家・竹内薫に言わせれば世界の『99.9%は仮説』なのだそうだ。あなたの視座をほんの少しずらせばそこに新しい「もしも」が口をあける。



マンガ：『ひきだしにテラリウム』
九井諒子（イースト・プレス）



新書：『四次元の世界
—超空間から相対性理論へ』
都筑卓司（ブルーバックス）



文庫：『日本 SF 短篇 50』
光瀬龍ほか（早川書房）

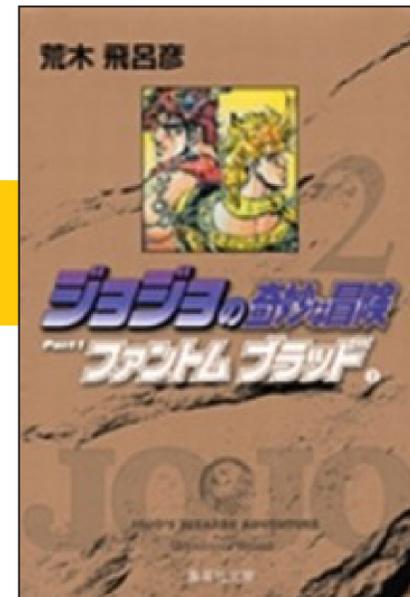
これが必殺！ DONDEN 読みだ！！

「DONDEN 読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

19 | 目覚めたら超能力

透視・念力・テレパシー

累計1億部超の「JOJO」シリーズ。登場人物たちは、呼吸をコントロールし、精神エネルギーを具現化したスタンド使いたち。各々のスタンドは独自の造形と能力をもつ。筒井の「七瀬三部作」は、美しきテレパスが主人公。彼女が読み取る相手の内面を（ ）書きの断片的連続として表した。新書は素粒子物理学、深層心理学、東洋哲学の観点から超能力にアプローチした一書。見えないものを形象化する力＝超能力であると、作家は表現として教えてくれる。



マンガ：『ジョジョの奇妙な冒険』
荒木飛呂彦（集英社）



新書：『「超能力」と「気」の謎に挑む』
天外伺朗（講談社）



文庫：『七瀬ふたたび』
筒井康隆（新潮文庫）

これが必殺！ DONDEN読みだ！！

「DONDEN読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。

19 | 目覚めたら超能力

スーパーネイチャー

生と死のあいだ、者と物のあいだにいるもの。『蟲師』は目に見えないが存在している「蟲」を物語の中心に据え、怪異を新たな枠組みで捉え直した。新書は、日本各地の石の聖地とその魅力を豊富な写真とともに紹介する一冊。『シャボテン幻想』は、荒涼とした砂漠に生きるシャボテンの奇怪な形態、怪奇な生態を描く偏愛随筆集。蟲、石、シャボテン。自然は日常と地続きの異界であって、不可視の生命体としての営みを孕む「超自然」なのである。



マンガ：『蟲師』
漆原友紀（講談社）



新書：『日本の聖なる石を訪ねて』
須田郡司（祥伝社）



文庫：『シャボテン幻想』
龍膽寺雄（ちくま学芸文庫）

これが必殺！ DONDEN読みだ！！

「DONDEN 読み」とは、マンガから入り、新書、文庫に出て、さらにその先の書籍へと知の枝を伸ばしていく読みである。マンガで関心をもった登場人物や題材を、新書では学術的に深め、文庫によって新たなるプロフィールを加えていくことができる。